地域づくり表彰

山立会（石川県白山市）

里山資源を循環させる
循環的な地域ビジネスの構築

山立会

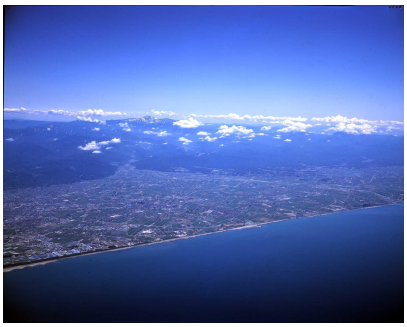
代表

有本　勲



１．白山市の概要

石川県白山市は、北陸地方の中央に位置し、豊かな自然と歴史が息づく都市です。市の西側は日本海に面し、東側には白山国立公園を擁する雄大な山岳地帯が広がり、四季折々の美しい景観が楽しめます。白山は日本三霊山の一つとして知られ、登山やハイキングを目的に全国から訪れる人が後を絶ちません。冬にはスキー場が賑わいを見せ、雪景色の中でのアクティビティが人気を集めます。



海と山の両面に面した白山市

地理的には、豊かな自然環境を活かした農業が盛んで、特に加賀野菜や米の生産が有名です。さらに、手取川の清流が育む酒造りも盛んで、地元の酒蔵が醸す日本酒は全国的にも高い評価を得ています。市内から約 20 キロの距離に小松空港があり、東京、大阪などを結ぶ航空路線が就航していることから、北陸観光の玄関口としての役割を果たしています。

２．団体の概要

山立会（やまだちかい）は、石川県白山市白山麓の木滑（きなめり）地区を拠点に「地域課題を新たな仕事へ変える」ことを理念として活動する「里山総合会社」です。動物生態学を専門とする代表の有本勲氏が、獣害対策や耕作放棄地の問題に直面したことをきっかけに 2017 年に創業しました。廃業寸前だった「木滑なめこ」の事業を承継し、さらに羊の放牧による耕作放棄地の再生、獣害対策として捕獲した野生鳥獣を利活用するジビエ事業、古民家を活用した食堂の運営など、複数の事業を複合的に展開。地域資源を循環させ、事業性と公益性を両立したソーシャルビジネスモデルを確立しています。

３．活動の背景

代表の有本氏は、大学でツキノワグマの生態研究に携わる中で、人間と野生動物の軋轢を目の当たりにしてきました。当初は獣害対策の専門家として地域に関わっていましたが、耕作放棄地の拡大や高齢化といった中山間地域の構造的な問題を解決するには、単なる対策だけでは不十分だと痛感。「地域に仕事を生み出し、経済を回すことが最大の獣害対策になる」との考えに至りました。この想いから、地域の厄介者であった野生鳥獣や荒れた土地を「資源」として捉え直し、それらを活用した持続可能なビジネスを創出することで、地域を内側から元気にしていくことを決意し、山立会を設立しました。



多岐にわたる活動のため、メンバーを随時募集しています

４．活動の内容

【地域の未利用資源を価値に変える多角経営】

山立会の中核をなすのは、地域の未利用資源や課題を「宝」へと転換する多角的な事業です。その一つが、創業 50 年以上の歴史を持ちながら廃業の危機にあった「木滑なめこ」渡部の事業承継です。同会はこれを引き継ぎ、肉厚で巨大な「でけえなめこ」としてリブランディング。そのユニークさと品質が評価され、関東・関西の有名飲食店にも販路を広げるなど、地域の新たな特産品として再生させました。また、深刻化する耕作放棄地の問題には、羊の放牧で対応。約 4ha の荒廃農地を緑豊かな牧草地へと蘇らせ、羊たちが草を食む牧歌的な風景は新たな観光資源となりました。さらに、農作物に被害をもたらすシカやイノシシを、高品質なジビエ「ONE GIBIER」として商品化。捕獲から加工、販売までを一貫して手掛け、獣害を地域経済を潤す資源へと変えています。



木滑なめこ【通称でけえなめこ】

【人と地域をつなぐ交流拠点とネットワークの創出】

事業展開と並行し、地域内外の人々をつなぐ仕組みづくりにも注力しています。築 95 年の古民家を改修した「山立会食堂」は、自社生産のなめこやジビエ、羊肉を使った料理を提供するだけでなく、地域住民や観光客が集う交流拠点としての役割を担っています。また、金沢工業大学や石川県立大学と連携し、学生たちが地域ブランディングや空き家活用などに実践的に関わるワークショップを継続的に開催。企業ボランティア

と共に羊の放牧作業を行うなど、多くの若者が地域と関わる「関係人口」の創出に成功しています。この取り組みは地域に新たな活気をもたらすだけでなく、若手社員の移住・定着にも繋がっており、持続可能な地域づくりの好循環を生み出しています。



学生と協力して行う空き家のDIY

４．創意工夫

【科学的知見と経営視点の融合による「里山循環モデル」】

山立会の最大の強みは、代表が持つ動物生態学の専門知識と、卓越した経営的アプローチを融合させている点です。獣害対策を単なる「駆除」で終わらせず、「捕獲→加工→販売→食体験→地域PR」という一連の経済サイクルとして構築しました。この独自の「里山循環モデル」は、全国的にも類を見ない革新的な取り組みです。また、中山間地域で単一事業の収益化が困難であることを見据え、なめこ事業を収益の柱としながら、羊、ジビエ、飲食といった複数の事業を相互補完させる「複合経営」を確立。これにより経営基盤を安定させ、新たな地域事業へ段階的に再投資する仕組みを構築しました。一次産業の枠を超え、研究開発から地域経営までを担う「里山総合会社」という新しい概念を提示しています。

【「稼ぐ力」と「人を育てる力」で築く持続可能な未来】

「補助金に頼らず、自ら稼ぐ事業体であること」を経営の根幹に据え、持続可能な組織運営を徹底しています。その結果、年間売上約7,200万円という安定した経営基盤を築き上げました。生み出された利益は、新たな事業への投資や、国の補助事業などを活用する際の自己資金として再投資され、活動の好循環を生んでいます。さらに、未来の地域を担う人材育成にも力を注いでおり、社員向けの経営品質研修を通じて、経営者視点を持つ人材を育成。その結果、若手社員が定着し、白山麓への移住を実現しています。地域協議会と共同で「山と羊と暮らすまち木滑」10年ビジョンを策定するなど、場当たり的ではない長期的視点に立った地域づくりを住民と共に実践しています。

〇．成果

【経済的基盤の確立と里山の再生】

山立会の多角的な事業展開は、目に見える形で地域の再生に貢献しています。経済面では、年間売上約7,200 万円という安定した事業基盤を構築。「補助金に頼らない経営」を実践し、持続可能なモデルを証明しました。これにより、18名の正規雇用を生み出し、その中には白山麓へ新たに移住してきた若手社員2名も含まれており、地域の担い手不足解消と定住促進に直接的な効果をもたらしています。環境面でも、羊の放牧によって約4haもの耕作放棄地を美しい牧草地として再生させ、里山の景観保全に貢献。飼育頭数も80頭規模まで拡大し、新たな特産品としての可能性を広げています。これらの数字は、地域課題がビジネスを通じて解決可能であることを具体的に示しています。



耕作放棄地で育てる羊

【地域ブランドの確立と全国的な波及効果】

活動を通じて、「でけえなめこの里」「羊のいる集落」といった、訪れる人の記憶に残るユニークな地域ブランドを確立しました。これらの取り組みは、かつて閉塞感が漂っていた集落に「自分たちの手で未来を創れる」という希望と誇りをもたらしています。その成果は外部からも高く評価されており、農林水産省の「ディスカバー農山漁村の宝」選定（2022年）や「白山市おみやげグランプリ」金賞受賞（2024年）、「石川地域づくり表彰大賞」受賞など、数々の栄誉に輝いています。全国の中山間地域から視察や講演依頼が絶えず、「課題解決のロールモデル」としての認知が拡大。活動に共感した人材が社員や関係人口として集まり、地域づくりの新たな原動力となる好循環が生まれています。

〇．今後の展望

山立会は、「里山総合会社」として、地域経営の視点からさらなる発展を目指しています。木滑地区協議会と連携して策定した「山と羊と暮らすまち木滑」10年ビジョンに基づき、羊畜舎や新たなめこ工場の建設、空き家活用といったプロジェクトを計画的に推進し、事業基盤を強化していきます。同時に、大学や企業との連携を深化させ、研究・教育・観光を横断した総合的な地域価値の向上に努めます。これらの活動を通じて、地域に関わる「関係人口」をさらに増やし、白山麓を持続可能な「地域生活圏」として次世代に繋いでいくことが、私たちの未来への展望です。